

令和3年度大学院授業評価まとめ（春学期）

| 整理番号 | 講義コード    | 講義名称       | 履修者数 | 回回数 | 回収率  | 平均値  | 授業評価表の分析  | 次回講義への対応   | その他  |
|------|----------|------------|------|-----|------|------|---|--|--|
| 1    | 21660002 | 植物生産科学特論   | 23   | 12  | 52.2 | 4.45 |   |  |  |
| 2    | 21660101 | 動物・水圏資源保全学 | 39   | 18  | 46.2 | 4.23 | オムニバス形式授業であったが概ね科目群平均値と近い値で4を上回った。しかし双方向性(共-60)は3.7, 主体的学習(共-3)は3.9と4以下でまた平均値を下回ったので改善が必要である。コロナのためオンラインとなり、またオムニバス形式だったの学生の学習意欲をかき立てるところまで至らなかったと思われる。   | 対面授業となれば双方向性の問題は解決される。教員は個々で主体的学習を促す様に、指導を改善するために、参考書の紹介等を行う必要がある。   |  |
| 3    | 21660102 | 生殖生物学特論    | 28   | 12  | 42.9 | 4.34 | 本講義は4名の講師（動物系：山内・宗、海洋生物系：太田・山口）によるオムニバス形式で行われている。学生と教員とのやりとりの双方向性（学習マネジメント）が3.9と平均を下回っていたが、それ以外は以外は科目群平均を上回っており、概ね良好と思われる。  | 講師間で話し合いをもち、小テストや議論形式の講義を導入するなど、学生と教員とのやりとりについて新たな展開を模索したい。  | 学部生の参加が多くなっており、人数が多くなると双方向性の改善に支障をきたすことが考えられる。 |
| 4    | 21660109 | 水族生理学特論    | 13   | 6   | 46.2 | 4.54 | 概ね平均以上であったが、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」は4.3と平均の4.4を0.1下回った。   | zoomを介した講義であったが、積極的に質問できる学生とそうでない学生がいたように感じたため、工夫をしたい。また、イントロダクションを改善し、目標をより明確にする。   |  |
| 5    | 21661001 | 森林環境管理学    | 27   | 16  | 59.3 | 4.41 | 本講義の平均評点は4.41で、1項目を除く全ての項目において科目群平均評点以上であり、本講義の授業は全般に高く評価されている。<br>共-60（学修マネジメント）の平均評点4.5は、科目群平均評点を0.5上回っており、教員-学生間の双方向教育が特に高く評価されている。また、共-67および共-68（インストラクション）の75%の評点が5で、平均評点も4.6と高く、教員の授業に対する準備と熱意が高く評価されている。<br>共-211（学修デザイン）の平均評点4.2は科目群平均評点と同点で、授業の難易度が若干高く、共-211（学修意欲）の平均評点4.1が科目群英金評点を0.1下回っており、授業内容に対する興味が若干低い傾向がみられる。<br>本講義は、教育コースの選択必修科目であり、8コマの授業を7名の教員でオムニバスの様に講義した。講義内容は森林環境管理に関するもので、講義内容が多岐にわたっているため、難易度が若干高いと評価され、授業内容に対する興味が若干低かったものと考えられる。 | 本講義の授業は全般に高く評価（平均評点4.41、1項目を除く全項目において科目群平均評点以上）されているので、次年度の講義も本年度の講義形式を踏襲して実施する。ただし、平均評点が科目群平均評点を0.1下回っている共-211（学修意欲）に関しては改善の余地があるので、オムニバス授業間で連携を強化し、それぞれの講義内容の関連性を理解させるとともに、これらの講義内容を総合的に理解する必要があること講義する。 |  |
| 6    | 21661002 | 森林資源管理学    | 21   | 14  | 66.7 | 4.54 | 担当教員が複数参加しゼミ形式で実施したため、授業の双方向性（学修マネジメント）と教員の熱意については4.9ポイントと高く、満足度も4.6と平均よりも高かった。4.5未満の評価が3項目（シラバスの学習目標の明確化、授業の難易度、学習意欲、教員の授業準備）であった。   | 4.5未満の評価項目について、シラバスの明確化、使用教科書の検討、教員の授業準備について改善をはかる。  |  |
| 7    | 21661003 | 森林・林業の科学   | 24   | 16  | 66.7 | 4.37 | 満足度は4.4と科目群平均値程度であり、比較的良好な授業が実施できたと判断される。その理由として、昨年度は急速オンライン形式への対応であったが、今年度については担当教員のオンライン（ライブ・オンデマンド）授業スキルの向上やオンラインに対応した教材の準備等が行えたことが挙げられる。  | 次年度は対面、オンライン、どちらにも対応できるように準備する。対面で実施となった場合もオンラインでの実施により教育効果のあったものについては導入しつつ実施する。<br>本講義はE科目であり、本来であれば、一般コースと国際コース学生のグループディスカッションも含まれるが、オンデマンドや一部のライブでは実施できなかった。次年度は実施できるよう工夫する。                            |  |
| 8    | 21661101 | 生産環境の科学    | 23   | 12  | 52.2 | 3.95 | E科目であり、講座の教員が専門毎で分かれる講義形式となる。コロナ対応で入国できない学生への対応を求められ、かつ海外からの聴講では時差を考慮する必要がある。したがって対面やリアルタイムの講義が困難でオンデマンド方式を強いられる講義であった。このため双方向性のやりとりの評価が低くなったのはやむを得ない面はある。  | コロナの状況次第、大学の講義方針次第で、講義形式については学生の満足度にも影響を与えるが、年々の新たな状況におけるノウハウを蓄積しながら改善を図っていく。  |  |
| 9    | 21661102 | 生産環境データ解析論 | 22   | 16  | 72.7 | 4.31 | 概ね科目群平均と同程度であった。プログラミングを伴うハンズオン形式の講義であるため、学生のDMS（デジタルマインド&スキル）や内容に対する興味の有無により、それらに対応する評価が低くなっている傾向が見られた。  | 難易度はこれ以上は下げられないので、課題等に関しては、メールやオンラインミーティングアプリなどを使って、適宜、学生の質問に回答できるようにする。   |  |

令和3年度大学院授業評価まとめ（春学期）

| 整理番号 | 講義コード    | 講義名称       | 履修者数 | 回収数 | 回収率  | 平均値  | 授業評価表の分析   | 次回講義への対応  | その他  |
|------|----------|------------|------|-----|------|------|--|---|--|
| 10   | 21661103 | 熱と流れの科学    | 17   | 7   | 41.2 | 4.13 | 質問10項目のうち7項目で、「4：そう思う」と「5：強くそう思う」のポジティブ回答が8割を超えており、昨年度と同程度の評価を受けた。とくに、本講義の満足度に関する評価点は4.4であり、受講生にとって意義が高く、かつ分かり易い授業を提供できたと考えられる。ただし、「学生と教員のやりとりには双方向性があったか」、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」、「この授業内容についてより深く学びたいか」についての評価が3点台であり、他の項目と比べてやや低い評価を受けた。本年度では、講義内容の説明動画の配信によるオンデマンド式に変更したことが大きく影響したものと考えられる。 | 次年度以降も、講義内容の説明動画の配信によるオンデマンド式を採用するので、主体的学修と学修意欲についてより高く評価されるような講義内容を考えたい。オンデマンドだけではなく、Zoom等を利用したWeb講義も一部導入し、双方向性のある授業を行うことで、主体的な学修意識や学習意欲の向上に繋がるようなコンテンツの提供を考えたい。   |  |
| 11   | 21661109 | 農業情報学特論    | 15   | 7   | 46.7 | 4.44 | 各評価項目の点数は4点以上であり、平均的な評価であった。しかし、感触としてはもっと悪そうである。なぜなら、課題の提出具合から学生の理解度は必ずしも高くなかったと推察されるからである。大学院一年の春学期ということで履修科目が集中し、課題にじっくり取り組む時間が無かったのが問題であったと分析する。  | 開講期間を夏学期に変更する。  |  |
| 12   | 21661301 | 木質の形成と利用   | 19   | 6   | 31.6 | 4.06 | シラバスの評価は4.3であった。学べき重要な目標についても4.4であり、学ぶべき重要な目標も明確であると評価された。   | これまで通り、学生にわかりやすく、何を学ぶかを説明していく。  |  |
| 13   | 21661302 | サステナブル資源科学 | 21   | 6   | 28.6 | 3.96 | 難易度・双評価などで評価が低い。啓発性については高い評価を得たと考えられる。   | 学生の意向に沿った方向性も必要と考えられる。  |  |
| 14   | 21661307 | 生物材料設計学    | 19   | 6   | 31.6 | 4.34 | 特段問題ない   | 指導者の意図した内容を受講生にきちんと伝える。   |  |
| 15   | 21663001 | 生物機能分子化学Ⅰ  | 25   | 7   | 28   | 3.95 | いずれの質問項目への評価も、科目群平均値よりもやや低かった。理由は明らかでないが、本年度はE科目として開講したために、日本人学生にとってハードルが高かった可能性がある。   | 評価が低かった双方向性について、学生の理解度を確認する質問などを多くするなどして、改善を図りたい。   |  |
| 16   | 21663002 | 生物機能分子化学Ⅱ  | 26   | 7   | 26.9 | 4.26 | 回収率が悪かったので、全体の意見ではないが、全体的に評価が良かったので、学生にとって有意義な授業を提供できたのではないと思う。  | 特に改善希望の意見もなく、高評価であったことから、次回も今回同様に授業を提供できれば良いと思う。  | リレー講義で、レポート提出での評価であったために、試験がなかったことから、最終講義の先生にアンケートの周知をお願いしていればもう少し回収できたかもしれない。 |
| 17   | 21663102 | バイオリソース特論  | 46   | 26  | 56.5 | 3.61 | コロナ対応でmoodleを利用した講義とした。国際コースの講義としても開講する関係で、海外の学生のオンラインへのアクセスを考慮し講義資料は全てmoodleへアップする形で行った。その講義資料からレポートを課して評価を行った。学生の全体的な評価は平均下回る項目が多かった。教員側がオンラインでの講義方法に不安があり、双方向性にかける講義となり評価が低かったと分析している。  | 教員が、zoom機能をマスターし、チャット機能などを用いて双方向性となる講義を目指したい。   |  |
| 18   | 21663103 | システム生物化学特論 | 44   | 22  | 50   | 4.31 | 全体的に科目群平均を若干上回る評価であったが、双方向性、主体的学修が若干低い評価であった。  | 今回はリモート講義の影響もあったと思われるが、今後双方向性のあり方に関して注力する。  |  |
| 19   | 21663104 | 環境微生物学特論   | 42   | 16  | 38.1 | 4.25 | 評価は科目群平均と大きく変わらず、概ね良好と判断した。しかし、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の項目では低い評価となっている。これは、コロナ対応のため、講義を対面形式とオンライン形式のハイブリッドにした（が、対面講義出席者はゼロであった）ことに起因すると考えている。   | 自由記述欄に成績の評価方法をきちんと講義の始めの段階で説明してほしかったとの要望があった。これは対面形式の第1回目に口頭で何度も説明したが、moodleに記載していなかったため、第1回に参加していなかった学生からのリクエストとも考えられる。また、4名の教員の分担講義から1名分の講義内容についてのレポートを科したが、この方法が良いか再考したい（関連する回だけ受講して、他の回を受講せずとも回答できるため）。 |  |
| 20   | 21663105 | 微生物生産工学特論  | 57   | 26  | 45.6 | 4.28 | 本授業は4人の教員がオムニバス形式で最新の微生物生産工学に関する知見を紹介するものである。今回はオンラインで実施したために、他大学から大学院に入学してきた学生にとっては唐突な印象があったかもしれない。   | 本授業の学習目的についてやはり明確に最初の授業で示すべきであったと反省している。来年は担当者も変わるので、イントロダクションをしっかりとやりたい。   |  |

令和3年度大学院授業評価まとめ（春学期）

| 整理番号 | 講義コード    | 講義名称              | 履修者数 | 回収数 | 回収率  | 平均値  | 授業評価表の分析   | 次回講義への対応  | その他 |
|------|----------|-------------------|------|-----|------|------|--|---|-----|
| 21   | 21663110 | 細胞機能工学特論          | 85   | 40  | 47.1 | 4.35 | 双方向性、わかりやすさ、準備状況等に関し、高い評価であった。またシラバスに関しての評価は十分ではなかった。  | これまでの講義形態を踏襲しつつ、シラバスの記載を明確化し、より理解しやすい、満足できる講義を目指す。  |     |
| 22   | 21663114 | 微生物遺伝子資源工学特論      | 55   | 18  | 32.7 | 3.99 | 回答率が悪く、全体的な意見かどうか判断がつかないが、難易度と双方向性に問題があるとの指摘があった。本科目は春学期開講ではあるがアドバンス科目であり、シラバスの履修条件にも第1回目講義時にも「遺伝子工学及び分子生物学に関する実験をすでに行なっていること（本講義はアドバンス科目なので、基礎的知識を持っているものとして応用面について解説するため、基礎知識がないと履修が困難である）」と明記・明言しているが、基礎知識が少ない学生の受講がかなり見られるため、講義内容に理解が追いついていないものとする。逆に内容を基礎的なものにする、実際の研究で生じるトラブルシューティングができないため、基礎を理解している学生にとっては、意義が見出せなくなる恐れがある。                    | 前年度も同様の問題点が指摘されたため、第1回の講義では履修条件をかなり丁寧に説明したつもりであるが、まだ不十分であったと考えられる。今後、このような状況が続く場合は、多くの学生が単位取得を主眼に置く春学期から、実際に研究を開始して問題点などをある程度理解し、本当に本講義を受講する必要がある学生のみが受講できる冬学期等への移動も考えたい。 |     |
| 23   | 21663301 | 食品機能学特論           | 65   | 46  | 70.8 | 4.38 | 概ね好評であり、従来どおりの授業内容で実施する。   | 概ね好評であり、従来どおりの授業内容で今後も実施する。   |     |
| 24   | 21663303 | 食品品質学特論           | 28   | 20  | 71.4 | 4.40 | E科目として、国際コース学生と日本人学生のクラスシェアで実施した講義である。教員3名で英語の資料を用いて英語で実施した講義で有り、日本人学生の総合評価は4.5と科目群平均よりも高かった、国際コース学生はバックグラウンドが様々で、食品科学についての素養が無い学生も含まれているため、講義内容を平易な内容にしたため日本人学生にとっては内容的に物足りなかったと思われる。これに対して、国際コース学生の評価は高く、総合評価は4.8で、平均を下回った項目は無かった。講義の難易度をどのレベルにすれば良いか、講義内容の選択が難しく、留学生と日本人がともに十分に満足できる講義の実施は難しいと感じられる。専門の異なる留学生と専門教育をうけて大学院に進学した日本人学生のクラスシェアの難しさを感じる。 | 専門の異なる留学生と専門教育をうけて大学院に進学した日本人学生のクラスシェアの難しさを感じるが、受講者の基礎知識のバランスを考えて講義内容を精査し、構築する計画である。  |     |
| 25   | 21663306 | 機能構造解析学特論         | 12   | 10  | 83.3 | 4.54 | 受講学生は概ね積極的姿勢で受講しており、次年度についても同様の内容で授業を行う。   | 本年度と同様に授業を行う。   |     |
| 26   | 21665013 | 生産環境の科学(国際コース)    | 13   | 11  | 84.6 | 4.37 | 日本人の学生と比較すると評価が高かった。様々な制限がある中の教員の努力をより理解できる立場の学生が多かったことが要因と考える。  | コロナ禍で様々な新たな状況になることが想定されるので、その中で様々な講義ノウハウの蓄積を高めていきたい。  |     |
| 27   | 21665014 | サステナブル資源科学(国際コース) | 15   | 12  | 80   | 4.31 | 総じて高評価を得たが、難易度が低い評価であった。   | 様々な専門分野の学生がいて、難易度について分かりやすい導入が必要である。  |     |
| 28   | 21665016 | 生物機能分子化学Ⅰ(国際コース)  | 12   | 7   | 58.3 | 4.59 | 同内容の本講義に対する日本人学生の評価とは对象的に、ほぼすべての評価項目の評価点が科目群平均よりも高かった。それでも双方向性に関する評価は相対的に低かった。   | 双方向性を改善するために、理解度をモニターする質問などを多く用意したい。  |     |
| 29   | 21665017 | バイオリソース特論(国際コース)  | 17   | 9   | 52.9 | 4.52 | 海外から入国できない学生もいることからmoodleを利用した講義とした。教員がzoom講義に不慣れであったため、双方向の講義にならず、評価は平均を下回った。   | オンライン講義のノウハウを教員側が学び、チャット機能を使うなどの工夫を行う予定である。   |     |

令和3年度大学院授業評価まとめ（春学期）

| 整理番号 | 講義コード    | 講義名称           | 履修者数 | 回収数 | 回収率  | 平均値  | 授業評価表の分析  | 次回講義への対応  | その他 |
|------|----------|----------------|------|-----|------|------|---|---|-----|
| 30   | 21665018 | 食品品質学特論(国際コース) | 11   | 7   | 63.6 | 4.66 | <p>E科目として、国際コース学生と日本人学生のクラスシェアで実施した講義である。教員3名で英語の資料を用いて英語で実施した講義で有り、日本人学生の総合評価は4.5と科目群平均よりも高かった、国際コース学生はバックグラウンドが様々で、食品科学についての素養が無い学生も含まれているため、講義内容を平易な内容にしたため日本人学生にとっては内容的に物足りなかったと思われる。</p> <p>これに対して、国際コース学生の評価は高く、総合評価は4.9で、平均を下回った項目は無かった。講義の難易度をどのレベルにすれば良いか、講義内容の選択が難しく、留学生と日本人がともに十分に満足できる講義の実施は難しいと感じられる。専門の異なる留学生と専門教育をうけて大学院に進学した日本人学生のクラスシェアの難しさを感じる。</p> | <p>専門の異なる留学生と専門教育をうけて大学院に進学した日本人学生のクラスシェアの難しさを感じるが、受講者の基礎知識のバランスを考えて講義内容を精査し、構築する計画である。</p> |     |

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。（授業評価表の分析の提出がなかったもの除く。）

令和3年度大学院授業評価まとめ（秋学期）

| 整理番号 | 講義コード    | 講義名称               | 履修者数 | 回収数 | 回収率  | 平均値  | 授業評価表の分析   | 次回講義への対応  | その他   |
|------|----------|--------------------|------|-----|------|------|--|---|-------|
| 1    | 21660003 | 総合的病害虫管理学          | 17   | 6   | 35.3 | 4.28 | <p>本科目は複数の教員によるオムニバス形式で実施している。アンケート回答率は35.3%と、昨年度より、また全体平均よりかなり低いものとなった。</p> <p>質問10項目のうち、4項目で科目群平均より高い値を示した。特に、学修意欲が大きく上回り、興味深い内容を提供できていると評価できた。また、本年度は対面で開始したものの、3回目よりオンライン（同時配信型、一部オンデマンド型）となったが、双方向性は確保されていたと判断された。</p> <p>しかしながら、6名からの回答ということで、全般的に授業評価分析が困難であった。</p>   | <p>講義内容については本年度と同様に、充実したものを提供していく。全ての回をしっかりと対面授業で実施できれば、全般的に評価を高めることができるものとする。引き続き、双方向性に留意しながら、総合的な満足度の向上に努めたい。</p>   | 特になし。 |
| 2    | 21660004 | 農業生物学特論            | 37   | 16  | 43.2 | 4.29 | <p>授業内容に触発されて自己学習したかの項目以外は、ほぼ平均ないしは平均より少し高い程度の評価であった。教員の熱意については平均よりも0.4ポイント高く評価されていた。</p>  | <p>授業内容に触発されて自己学習したかが平均より0.5ポイントも低く、これは問題だ。また学習意欲の項目が平均より0.2ポイント低かったが、学生の意欲が増加するよう講義内容に工夫を入れたい。</p>   |       |
| 3    | 21660007 | 植物生産生理学特論          | 16   | 8   | 50   | 4.59 | <p>学修マネジメント「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」を除き、すべての項目で平均より上回っていた。教員の熱意と満足度が4.8であった。当該項目は、平均が4.1のところ、3.8であった。</p>  | <p>講義の後半は、毎回課題を出し課題の解答と質問に対する答えを個々の学生に返信する形式をとった。この方式を担当教員で共有し講義全体を通して行う。</p>   |       |
| 4    | 21660008 | ゲノムサイエンスとエピジェネティクス | 18   | 8   | 44.4 | 4.58 | <p>全て、4.4以上の評価であり、学習目標の設定や授業の進め方は適切であった。</p>   | <p>授業の難易度は適切であったか、教員の説明はわかりやすかったがともに、4.4で他の項目と比較すると低かったため、次回は、より分かりやすい授業に努める。</p>   |       |
| 5    | 21660011 | 昆虫病理学特論            | 14   | 4   | 28.6 | 4.00 | <p>質問のほぼ全般にわたって、評価値は科目群平均より下回る結果となった。これは、昨年度に引き続き今年度も昆虫病理学の専門書を使用してのレポート提出とし、またすべてオンライン（オンデマンド型）としたことによる影響と思われる、特に双方向性についての評価が低くなった。しかしながら、受講生が少ない上にアンケート回答率も28.6%と低く、受講生4名の回答からの分析は極めて困難である。</p>  | <p>来年度も引き続き（オンライン以外は）同様の方法で実施するが、双方向性を重視しながらやり方を工夫して、受講生が内容をより理解して自身の興味・教養へと繋げることができるように努めたい。</p>   | 特になし。 |
| 6    | 21660016 | 植物環境調節学特論          | 21   | 12  | 57.1 | 4.55 |  |   |       |
| 7    | 21660103 | 動物・海洋生物学特論         | 11   | 9   | 81.8 | 4.09 | <p>The students' evaluation (21665011) indicate that our course was rated higher than the average for the Subject Group by the Int'l students. However, Japanese students were not staisfied in a simiar way (21660103), whcih indicate that language might have played a significant role for such different evaltions.</p> | <p>It would be difficult to use Japanese language in the class as it is English taught class. So, Japanese students need to get used to understand English taught classes. In addition, it would be better for Japanese students to attend some English taught classes from their undergrad level for their better understading in Grad level English taught classes.</p> |       |

令和3年度大学院授業評価まとめ（秋学期）

| 整理番号 | 講義コード    | 講義名称        | 履修者数 | 回収数 | 回収率  | 平均値  | 授業評価表の分析  | 次回講義への対応   | その他 |
|------|----------|-------------|------|-----|------|------|---|--|-----|
| 8    | 21660105 | 動物形態形成学特論   | 17   | 8   | 47.1 | 4.09 | 授業アンケートは受講生の半数に満たない回収率であった。全体としては科目群平均と同等もしくはやや低い評価結果であったが、10のうち半数（5）のカテゴリーにおいて「そう思わない」、「どちらかと言えばそう思わない」と評価した回答が1名ずつあった。低い評価をした1名はおそらく同一人物であろうと想像するが、そのように評価した学生には本科目に対する興味・関心がさほど強いものではなかったのではないかと考える。受講生には担当する教育コース以外からの受講生が1/3以上含まれており、低い評価をした学生がその中に含まれるのであれば、専門領域以外からの受講生にも同様に向学心を持たせることの難しさを感じさせる結果であった。<br>「シラバスの学習目標は明確だったか」という質問の評価が科目群平均を下回っていたのは、シラバスを公開した後で講義内容が他の講義と大きく重複していたことが明らかになり、内容を大きく変更することを第1回目の授業で通知することになったのが影響しているのではないかと考える。それ以外の質問に関しては、回答者の半数以上が「そう思う」と回答していることから、一定の成果はあったものと考ええる。 | 次年度においては、シラバスの内容からかけ離れた授業にならないように、事前の準備をしっかりと行う必要がある。  |     |
| 9    | 21660106 | 動物生殖生理学特論   | 17   | 12  | 70.6 | 4.53 | 本講義は2名の講師で担当し山内が哺乳動物、宗が鳥類の生殖についてそれぞれ講義を行った。アンケートの結果は、すべての項目で科目群平均を上回っており、概ね良好であったと思われる。回収率も70.6%と前期の学部の講義と比べて高い値であったが、より徹底してアナウンスを行い更なる改善に努めたい。   | 主体的学修と学習意欲が4.3と本講義では低い値であった。本講義に興味を持ってもらうように、不妊治療など生殖に関する社会的なトピックなどを講義に取り入れて行きたい。                |     |
| 10   | 21660111 | 水圏生物資源環境学特論 | 30   | 25  | 83.3 | 4.53 | 共60-学修マネジメント-双方向性以外は、おおむね全ての項目において科目群平均を上回っており、5名によるオムニバス形式でも学生の期待に一定程度応えられたと自己評価している。双方向性については、コロナ禍でのオンラインやE-learningであったことが原因であり、対面講義に戻れば、自然と改善される。共3-主体的学修-授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した、が、科目群平均とほぼ同値であったが、大学院生それぞれが自身の専門領域で研究に多くの時間を割かれる実態を考えれば、関連外の講義テーマに対して学生の自発的学習を促すよりも、講義時間の中で問題解決と正しい理解を促す方が良いといった考えもあるかと思う。  | 特に、改善する予定はない。  |     |
| 11   | 21661005 | 森林計画学特論     | 11   | 8   | 72.7 | 4.41 | 1つの項目を除いて科目群平均を上回るもしくは同等の評価であった。相対的に評価が低かったのは、学修デザイン（授業の難易度は適切であったか）が平均4.3に対して3.9であり、改善を要する。相対的に評価が高かったのは熱意や双方向性であった。   | 相対的に評価が低かった学修デザイン（授業の難易度は適切であったか）については、講義の後半は英語論文のプレゼン形式であったことに起因するものと思われる。より丁寧な解説・議論を心掛ける必要がある。 |     |
| 12   | 21661006 | 山地防災学特論     | 19   | 10  | 52.6 | 4.39 | アンケート項目の集計結果のうち主体的学習および学習意欲の2項目が他の講義科目も平均より下回っていることから、この点について特に重点的な工夫・改善の余地があることを示唆しているものと分析した。   | 異なる専門研究分野に進んでいる院生に対しても、興味を触発されるような題材・講義方法を取り入れることを、特に主体的学習および学習意欲の2項目の改善を図っていく。                  |     |

令和3年度大学院授業評価まとめ（秋学期）

| 整理番号 | 講義コード    | 講義名称         | 履修者数 | 回収数 | 回収率  | 平均値  | 授業評価表の分析   | 次回講義への対応   | その他   |
|------|----------|--------------|------|-----|------|------|--|--|---|
| 13   | 21661008 | 造林学特論        | 18   | 9   | 50   | 4.08 | 多くの項目で平均値を下回る結果となっていた。この原因は「そう思わない」と回答した学生が一定数いたこと、1項目について「そう思わない」と回答した学生がいたことが原因であり、講義が目指す目標の明確化が課題であることが浮き彫りとなっていた。          | まずは、シラバスの改善が必要であり、さらにこの講義では何を学ぶべきかを明確に伝えたのちに講義に臨むべきである。従って、教員の準備と抗議に対する明確な目標が全てであり、講義準備段階で練り込む必要があると考えられる。 |   |
| 14   | 21661107 | 土壌学特論        | 11   | 4   | 36.4 | 4.67 | 総合的には学生からの評価は高かったと思われる。とくに、目標の明確性、教員の熱意、準備、双方向性の評価が高かった。ただし、「この授業内容についてより深く学びたいか」の設問に対するスコアは平均よりも低かった。                         | 授業内容を一部見直し、学生により深く学びたいと思ってもらえるようにコンテンツを組み替えた。  | 登録数11に対して回収数は4であり、回収率が36.4%と低かったため、全体を代表するアンケート結果になっていない可能性があります。授業アンケートを授業時間内に実施できないと、どうしても回収率は低くなってしまいます。 |
| 15   | 21661110 | 生産システム設計学特論  | 17   | 3   | 17.6 | 4.1  |  |  |   |
| 16   | 21661111 | ポストハーベスト工学特論 | 15   | 4   | 26.7 | 4.27 | 概ね良好であったが、主体的学修にはつながっておらず、工夫が必要である。  | 主体的学修・学習意欲の向上に努める。   |   |
| 17   | 21661305 | 森林バイオマス科学    | 17   | 5   | 29.4 | 4.62 | 対面講義が実施でき、比較的高い評価であった。   | 来年度も同様に実施したい。  |   |
| 18   | 21663003 | 遺伝情報発現制御機構特論 | 16   | 4   | 25   | 3.71 |  |  |   |
| 19   | 21663005 | 海洋生命化学特論     | 22   | 12  | 54.5 | 4.82 | 回収率が54.4%ではあったが、全ての質問項目において、平均を上回っていたので、学生の満足度は高かったと考えられる。   | 大学院の授業なので、出来るだけ研究に役立つような内容を取り入れていきたい。アンケートの回収率が54.4%であったので、もう少し回収率が高くなるように工夫する必要がある。                       |   |
| 20   | 21663007 | 生物物理化学特論     | 22   | 6   | 27.3 | 4.14 | 「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」と「この授業内容についてより深く学びたいか」が低い評価だった。学生が自らする気持ちにさせることはできなかったと考えられる。                                       | 学習意欲を向上させるため、具体例を増やすなどで改善したい。  |   |
| 21   | 21663115 | 発酵化学特論       | 38   | 11  | 28.9 | 4.45 | 全体的に本授業に高い評価をもらったので、次年度以降も頑張って続けていきたい。   | 今回、対面の授業を行ったために、対面への対応がうまくいかず学生からの質問などにも答えられなかったことを反省している。次回以降は細かく学生からの質問に答えたい。                            |   |
| 22   | 21663302 | 食品加工学特論      | 35   | 17  | 48.6 | 4.22 | この講義を通じて主体的に関連項目について学びたいという点、ならびに双方向性に関するところの評価が低かった。これらについては情報伝達型の傾向が強すぎた可能性があり、受講生の考えを出させるように改善が必要であると考えられる。                 | 主体的学修意欲を高めて双方向性を維持できるように準備したい。   |   |
| 23   | 21665001 | 基礎統計学        | 22   | 20  | 90.9 | 4.15 | 総合的には、科目群平均を全ての項目で下回った結果となったので改善が必要である。<br>学生と教員とのやりとりには双方向性があった(共-60)と教員の説明はわかりやすかった(共-67)は3.9と3.8であり、特に改善が必要である。宿題と宿題の解が少ない。 | 宿題と宿題の解の数を上げる。宿題と宿題の解も説明する。  |   |

令和3年度大学院授業評価まとめ（秋学期）

| 整理番号 | 講義コード    | 講義名称              | 履修者数 | 回収数 | 回収率  | 平均値  | 授業評価表の分析   | 次回講義への対応   | その他 |
|------|----------|-------------------|------|-----|------|------|--|--|-----|
| 24   | 21665006 | 農学生命科学            | 25   | 22  | 88   | 4.4  | 回収率88%とまずまずの回答を得ており、その平均点も全て4以上と悪くないと考える。また、双方向性について一定以上の高い評価が得られていることから、学生のニーズにはある程度沿っているものと考え。ただし、これは受講人数が限られた講義であったので、これ以上受講者数が増えると、双方向性は保てないと考える。  | 1名の学生から「プロテオミクスやゲノミクスで使う道具を紹介するのが目的なのはわかるが、道具の使い方や原理が理解できていない気がする。先生方のやり方を真似して結果を出すことはできても、自分の研究でそれを実行できるとは思えない。」との意見があった。これは、真似ればその場ではできるが、自身でやってみると実践できないという意味と考える。そうであれば、知識・技術の真の定着という意味では不十分と考える。これについては、次年度以降改善を考えたい。 |     |
| 25   | 21665007 | フードサイエンス・システム論    | 29   | 26  | 89.7 | 4.24 | 本講義は、オムニバス形式でフードサイエンスに関する基礎的な内容を英語で講義している、国際コース修士課程学生向けの授業である。コロナウイルス感染症拡大及び留学生が入国できていない状況から、完全にオンラインで実施した講義で、基本的にはズームなどで録画をしながら講義を行い、オンタイムで受講できない学生はビデオを見てレポートを作成するといった対応をおこなった。しかし教員の中には、英語のPowerPoint資料を提示して、それを読ませるだけの形式で行った教員もいたため、これに対して学生からの不満が出たことなどが原因で、ほとんどの項目で科目群平均を下回ったと考えられる。受講する学生の滞在地によっては日本との時差が大きく異なり、Web通信状況も安定していなかったため、学生も円滑に授業を受講することができなかったことも問題であったと思われる。 | 今後もオンラインでの授業が予想されるので、学生の要望に充分対応するために、今後はすべての教員が、さらに講義資料を改善して準備し、オンラインで直接話す形式での講義を行う計画である。  | なし  |
| 26   | 21665010 | 農業生物学特論(国際コース)    | 31   | 24  | 77.4 | 4.29 | 共通項目はどれも平均という結果になっている。普通の講義と言うことになる。   | 平均よりはだいぶ高い項目が少し出るように講義内容を向上させたい。学生からのコメント（そして教員への直接的な連絡でも）に、講義に参加しているのにmoodle上で出席カウントされていないというのがしょっちゅうあるが、これはどうということなのだろう？   |     |
| 27   | 21665011 | 動物・海洋生物学特論(国際コース) | 14   | 10  | 71.4 | 4.61 | 総じて高評価を得たが、難易度が低い評価であった。   | 様々な専門分野の学生がいて、難易度について分かりやすい導入が必要である。   |     |
| 28   | 21669904 | 食品免疫機能分析学特論       | 13   | 9   | 69.2 | 4.75 | 今年度は、講義名を機能性多糖分析学特論から食品免疫機能分析学特論に改め、取り上げる食品の枠を広げるとともに、免疫調節作用を中心に講義を行った。学生の授業評価は平均をやや上回っており、講義内容や資料等について、概ね支持が得られたと考える。授業出席および受講態度は概ね良好であったが、質問が少なく、学生の学習意欲や主体性を高める方策を講じる必要がある。今年度の新たな取り組みとして、外部講師による講演枠を設けたことは、学生にとって有意義であった。  | 次期も同様の講義形式による授業を行うが、内容の見直しと改善を図り、学生の学習意欲と理解の向上に努める。また、学生に身近なテーマを盛り込み、質問の投げ掛けなどをすることで、双方向性を引き出す取り組みをしたい。また、外部講師による講義枠は、継続して設けていく予定である。  |     |

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。（授業評価表の分析の提出がなかったものを除く。）



令和3年度大学院授業評価まとめ（冬学期）

| 整理番号 | 講義コード    | 講義名称       | 履修者数 | 回収数 | 回収率  | 平均値  | 授業評価表の分析   | 次回講義への対応  | その他 |
|------|----------|------------|------|-----|------|------|--|---|-----|
| 1    | 21660006 | 作物学特論      | 12   | 4   | 33.3 | 4.40 | 総合評価として満足度が4.0と低くなってしまった。コメントにも記載されていたが、Moodle上での情報交換が一部の学生とうまく行えていなかったことが原因ではないかと考えている。専門分野が異なる学生に対して、どの程度対応するべきなのか非常に迷いながらの講義となったことも原因ではないかと考えている。 | 使用教科書を再考したいと考えている。近年、専門が異なる学生の受講生が増えてきていることもあり、講義全体のレベルも含めて検討したい。   |     |
| 2    | 21661004 | 樹木生理学特論    | 10   | 9   | 90   | 4.14 | 全体として、やや好評だったと思う。  | 学生側の学びを深くするには、学生にプレゼンを課するのが良いかと思うが、そうすると、学生の負担が大きくなる。私としては、大学院生は自らの研究に打ち込んで欲しいので本意ではない。講義の内容は、講義中に消化できるものになりたい。   |     |
| 3    | 21661007 | 林業経済学特論    | 13   | 11  | 84.6 | 4.56 | 全体的に科目群平均よりも高い評価であった。ゼミ形式で実施し、質疑を重視したため、双方向性（共-60）、説明（共-67）、熱意（共-81）は4.8と高い評価を得た。難易度（共-211）と主体的学修（共-3）が4.3と総体的に低かった。                                 | 学部時代での単位取得状況や学生の理解度を把握した上で、説明の仕方やテキストの担当章を割り振ること、関係する書籍や論文を紹介して、主体的な学びに繋げること、などの工夫を行いたい。                          |     |
| 4    | 21661303 | 木質理学特論     | 13   | 5   | 38.5 | 2.92 |  |   |     |
| 5    | 21661304 | 木質材料工学特論   | 14   | 5   | 35.7 | 3.46 | 学生の慣れない、木材の物理の先端の成果の話で、全般的に評価は低い。その中で、満足度はやや平均に近い。   | なるべく分かりやすくを心がけ、また、双方向での理解度の上昇を期したい。   |     |
| 6    | 21663009 | 比較免疫学特論    | 16   | 8   | 50   | 4.61 | ほぼすべての質問項目で、科目群平均を超える評価点を得た。ただし、双方向性と主体的学修触発に関する点は平均程度に留まった。   | 講義内で、積極的に学生に質問を投げかけて、Q&Aセッションの充実を図りたい。  |     |
| 7    | 21663106 | 遺伝子情報制御学特論 | 22   | 8   | 36.4 | 3.89 | コロナ対応のため、急遽オンラインとオンデマンド形式の講義としたため、特に、双方向性や講義準備に関する評価が低い。また、全体的に平均点を下回るもおとなった。  | 次回以降、対面型の講義を実施することにより、双方向性の確保、学生に理解向上に取り組みたい。   |     |
| 8    | 21663305 | 食品栄養学特論    | 14   | 9   | 64.3 | 4.25 | 概ね、いいのだが、難易度が高いので、ついていけない学生がいるが、栄養学の基礎があることが前提です。シラバスに記載してあります。全体を満足させるのは無理だと思います。   | スライドはあまり配布したくないのですが、復讐用として配布したいと思います。   |     |
| 9    | 21663307 | 食品工学特論     | 26   | 15  | 57.7 | 4.11 | 目標の明示、双方向性、説明、準備、熱意において低値を示していた。今年度はまだ遠隔でおこなったこともあり、一方的になったことも要因の一つと考えられる。   | 次回からは対面で行うことを予定しているため、双方向性や準備、熱意などは改善されると思われる。<br>授業の説明などについても改善をする予定である。   |     |
| 10   | 21665003 | 生物資源論      | 24   | 19  | 79.2 | 4.37 | どの項目も平均あるいは平均を少しだけ上回る程度であった。平均的な講義と言うことか。ただ授業の難易度が適切であったかの設問では、平均より0.2ポイント低かった。  | 授業の難易度については難しいところだ。この講義はどうしても様々な専攻の学生が受講するため、ある学生にとっては簡単でも全然異なる専攻の学生にとっては難しいと思われるからだ。少し基礎的な内容を増やした講義にした方がよいのだろうか。 |     |
| 11   | 21665004 | 地水環境論      | 18   | 15  | 83.3 | 4.12 | おおむね好評であった。  | 適宜講義内容を改善する。  |     |

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。（授業評価表の分析の提出がなかったもの除く。）

令和3年度大学院授業評価まとめ（秋学期）

| 整理番号 | 講義コード    | 講義名称               | 履修者数 | 回収数 | 回収率  | 平均値  | 授業評価表の分析  | 次回講義への対応   | その他   |
|------|----------|--------------------|------|-----|------|------|---|--|-------|
| 1    | 21660003 | 総合的病害虫管理学          | 17   | 6   | 35.3 | 4.28 | 本科目は複数の教員によるオムニバス形式で実施している。アンケート回答率は35.3%と、昨年度より、また全体平均よりかなり低いものとなった。質問10項目のうち、4項目で科目群平均より高い値を示した。特に、学修意欲が大きく上回り、興味深い内容を提供できていると評価できた。また、本年度は対面で開始したものの、3回目よりオンライン（同時配信型、一部オンデマンド型）となったが、双方向性は確保されていたと判断された。しかしながら、6名からの回答ということで、全般的に授業評価分析が困難であった。   | 講義内容については本年度と同様に、充実したものを提供していく。全ての回をしっかりと対面授業で実施できれば、全般的に評価を高めることができるものとする。引き続き、双方向性に留意しながら、総合的な満足度の向上に努めたい。   | 特になし。 |
| 2    | 21660004 | 農業生物学特論            | 37   | 16  | 43.2 | 4.29 | 授業内容に触発されて自己学習したかの項目以外は、ほぼ平均ないしは平均より少し高い程度の評価であった。教員の熱意については平均よりも0.4ポイント高く評価されていた。  | 授業内容に触発されて自己学習したかが平均より0.5ポイントも低く、これは問題だ。また学習意欲の項目が平均より0.2ポイント低かったが、学生の意欲が増加するよう講義内容に工夫を入れたい。   |       |
| 3    | 21660007 | 植物生産生理学特論          | 16   | 8   | 50   | 4.59 | 学修マネジメント「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」を除き、すべての項目で平均より上回っていた。教員の熱意と満足度が4.8であった。当該項目は、平均が4.1のところ、3.8であった。  | 講義の後半は、毎回課題を出し課題の解答と質問に対する答えを個々の学生に返信する形式をとった。この方式を担当教員で共有し講義全体を通して行う。   |       |
| 4    | 21660008 | ゲノムサイエンスとエピジェネティクス | 18   | 8   | 44.4 | 4.58 | 全て、4.4以上の評価であり、学習目標の設定や授業の進め方は適切であった。   | 授業の難易度は適切であったか、教員の説明はわかりやすかったがともに、4.4で他の項目と比較すると低かったため、次回は、より分かりやすい授業に努める。   |       |
| 5    | 21660011 | 昆虫病理学特論            | 14   | 4   | 28.6 | 4.00 | 質問のほぼ全般にわたって、評価値は科目群平均より下回る結果となった。これは、昨年度に引き続き今年度も昆虫病理学の専門書を使用してのレポート提出とし、またすべてオンライン（オンデマンド型）としたことによる影響と思われる、特に双方向性についての評価が低くなった。しかしながら、受講生が少ない上にアンケート回答率も28.6%と低く、受講生4名の回答からの分析は極めて困難である。  | 来年度も引き続き（オンライン以外は）同様の方法で実施するが、双方向性を重視しながらやり方を工夫して、受講生が内容をより理解して自身の興味・教養へと繋げることができるように努めたい。   | 特になし。 |
| 6    | 21660016 | 植物環境調節学特論          | 21   | 12  | 57.1 | 4.55 |   |  |       |
| 7    | 21660103 | 動物・海洋生物学特論         | 11   | 9   | 81.8 | 4.09 | The students' evaluation (21665011) indicate that our course was rated higher than the average for the Subject Group by the Int'l students. However, Japanese students were not staisfied in a simiar way (21660103), whcih indicate that language might have played a significant role for such different evaltions. | It would be difficult to use Japanese language in the class as it is English taught class. So, Japanese students need to get used to understand English taught classes. In addition, it would be better for Japanese students to attend some English taught classes from their undergrad level for their better understading in Grad level English taught classes. |       |

令和3年度大学院授業評価まとめ（秋学期）

| 整理番号 | 講義コード    | 講義名称        | 履修者数 | 回収数 | 回収率  | 平均値  | 授業評価表の分析  | 次回講義への対応   | その他 |
|------|----------|-------------|------|-----|------|------|---|--|-----|
| 8    | 21660105 | 動物形態形成学特論   | 17   | 8   | 47.1 | 4.09 | 授業アンケートは受講生の半数に満たない回収率であった。全体としては科目群平均と同等もしくはやや低い評価結果であったが、10のうち半数（5）のカテゴリーにおいて「そう思わない」、「どちらかと言えばそう思わない」と評価した回答が1名ずつあった。低い評価をした1名はおそらく同一人物であろうと想像するが、そのように評価した学生には本科目に対する興味・関心がさほど強いものではなかったのではないかと考える。受講生には担当する教育コース以外からの受講生が1/3以上含まれており、低い評価をした学生がその中に含まれるのであれば、専門領域以外からの受講生にも同様に向学心を持たせることの難しさを感じさせる結果であった。<br>「シラバスの学習目標は明確だったか」という質問の評価が科目群平均を下回っていたのは、シラバスを公開した後で講義内容が他の講義と大きく重複していたことが明らかになり、内容を大きく変更することを第1回目の授業で通知することになったのが影響しているのではないかと考える。それ以外の質問に関しては、回答者の半数以上が「そう思う」と回答していることから、一定の成果はあったものと考ええる。 | 次年度においては、シラバスの内容からかけ離れた授業にならないように、事前の準備をしっかりと行う必要がある。  |     |
| 9    | 21660106 | 動物生殖生理学特論   | 17   | 12  | 70.6 | 4.53 | 本講義は2名の講師で担当し山内が哺乳動物、宗が鳥類の生殖についてそれぞれ講義を行った。アンケートの結果は、すべての項目で科目群平均を上回っており、概ね良好であったと思われる。回収率も70.6%と前期の学部の講義と比べて高い値であったが、より徹底してアナウンスを行い更なる改善に努めたい。   | 主体的学修と学習意欲が4.3と本講義では低い値であった。本講義に興味を持ってもらうように、不妊治療など生殖に関する社会的なトピックなどを講義に取り入れて行きたい。                |     |
| 10   | 21660111 | 水圏生物資源環境学特論 | 30   | 25  | 83.3 | 4.53 | 共60-学修マネジメント-双方向性以外は、おおむね全ての項目において科目群平均を上回っており、5名によるオムニバス形式でも学生の期待に一定程度応えられたと自己評価している。双方向性については、コロナ禍でのオンラインやE-learningであったことが原因であり、対面講義に戻れば、自然と改善される。共3-主体的学修-授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した、が、科目群平均とほぼ同値であったが、大学院生それぞれが自身の専門領域で研究に多くの時間を割かれる実態を考えれば、関連外の講義テーマに対して学生の自発的学習を促すよりも、講義時間の中で問題解決と正しい理解を促す方が良いといった考えもあるかと思う。  | 特に、改善する予定はない。  |     |
| 11   | 21661005 | 森林計画学特論     | 11   | 8   | 72.7 | 4.41 | 1つの項目を除いて科目群平均を上回るもしくは同等の評価であった。相対的に評価が低かったのは、学修デザイン（授業の難易度は適切であったか）が平均4.3に対して3.9であり、改善を要する。相対的に評価が高かったのは熱意や双方向性であった。   | 相対的に評価が低かった学修デザイン（授業の難易度は適切であったか）については、講義の後半は英語論文のプレゼン形式であったことに起因するものと思われる。より丁寧な解説・議論を心掛ける必要がある。 |     |
| 12   | 21661006 | 山地防災学特論     | 19   | 10  | 52.6 | 4.39 | アンケート項目の集計結果のうち主体的学習および学習意欲の2項目が他の講義科目も平均より下回っていることから、この点について特に重点的な工夫・改善の余地があることを示唆しているものと分析した。   | 異なる専門研究分野に進んでいる院生に対しても、興味を触発されるような題材・講義方法を取り入れることを、特に主体的学習および学習意欲の2項目の改善を図っていく。                  |     |

令和3年度大学院授業評価まとめ（秋学期）

| 整理番号 | 講義コード    | 講義名称         | 履修者数 | 回収数 | 回収率  | 平均値  | 授業評価表の分析   | 次回講義への対応   | その他   |
|------|----------|--------------|------|-----|------|------|--|--|---|
| 13   | 21661008 | 造林学特論        | 18   | 9   | 50   | 4.08 | 多くの項目で平均値を下回る結果となっていた。この原因は「そう思わない」と回答した学生が一定数いたこと、1項目について「そう思わない」と回答した学生がいたことが原因であり、講義が目指す目標の明確化が課題であることが浮き彫りとなっていた。                                    | まずは、シラバスの改善が必要であり、さらにこの講義では何を学ぶべきかを明確に伝えたのちに講義に臨むべきである。従って、教員の準備と抗議に対する明確な目標が全てであり、講義準備段階で練り込む必要があると考えられる。   |   |
| 14   | 21661107 | 土壌学特論        | 11   | 4   | 36.4 | 4.67 | 総合的には学生からの評価は高かったと思われる。とくに、目標の明確性、教員の熱意、準備、双方向性の評価が高かった。ただし、「この授業内容についてより深く学びたいか」の設問に対するスコアは平均よりも低かった。   | 授業内容を一部見直し、学生により深く学びたいと思ってもらえるようにコンテンツを組み替えたい。   | 登録数11に対して回収数は4であり、回収率が36.4%と低かったため、全体を代表するアンケート結果になっていない可能性があります。授業アンケートを授業時間内に実施できないと、どうしても回収率は低くなってしまいます。 |
| 15   | 21661110 | 生産システム設計学特論  | 17   | 3   | 17.6 | 4.1  |  |  |   |
| 16   | 21661111 | ポストハーベスト工学特論 | 15   | 4   | 26.7 | 4.27 | 概ね良好であったが、主体的学修にはつながっておらず、工夫が必要である。  | 主体的学修・学習意欲の向上に努める。   |   |
| 17   | 21661305 | 森林バイオマス科学    | 17   | 5   | 29.4 | 4.62 | 対面講義が実施でき、比較的高い評価であった。   | 来年度も同様に実施したい。  |   |
| 18   | 21663003 | 遺伝情報発現制御機構特論 | 16   | 4   | 25   | 3.71 |  |  |   |
| 19   | 21663005 | 海洋生命化学特論     | 22   | 12  | 54.5 | 4.82 | 回収率が54.4%ではあったが、全ての質問項目において、平均を上回っていたので、学生の満足度は高かったと考えられる。   | 大学院の授業なので、出来るだけ研究に役立つような内容を取り入れていきたい。アンケートの回収率が54.4%であったので、もう少し回収率が高くなるように工夫する必要がある。   |   |
| 20   | 21663007 | 生物物理化学特論     | 22   | 6   | 27.3 | 4.14 | 「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」と「この授業内容についてより深く学びたいか」が低い評価だった。学生が自らする気持ちにさせることはできなかったと考えられる。   | 学習意欲を向上させるため、具体例を増やすなどで改善したい。  |   |
| 21   | 21663115 | 発酵化学特論       | 38   | 11  | 28.9 | 4.45 | 全体的に本授業に高い評価をもらったので、次年度以降も頑張って続けていきたい。   | 今回、対面の授業を行ったために、対面への対応がうまくいかず学生からの質問などにも答えられなかったことを反省している。次回以降は細かく学生からの質問に答えたい。  |   |
| 22   | 21663302 | 食品加工学特論      | 35   | 17  | 48.6 | 4.22 | この講義を通じて主体的に関連項目について学びたいという点、ならびに双方向性に関するところの評価が低かった。これらについては情報伝達型の傾向が強すぎた可能性があり、受講生の考えを出させるように改善する必要があると考える。  | 主体的学修意欲を高めて双方向性を維持できるように準備したい。   |   |
| 23   | 21665001 | 基礎統計学        | 22   | 20  | 90.9 | 4.15 | 総合的には、科目群平均を全ての項目で下回った結果となったので改善が必要である。<br>学生と教員とのやりとりには双方向性があった(共-60)と教員の説明はわかりやすかった(共-67)は3.9と3.8であり、特に改善が必要である。宿題と宿題の解が少ない。                           | 宿題と宿題の解の数を上げる。宿題と宿題の解も説明する。  |   |
| 24   | 21665006 | 農学生命科学       | 25   | 22  | 88   | 4.4  | 回収率88%とまずまずの回答を得ており、その平均点も全て4以上と悪くないと考える。また、双方向性について一定以上の高い評価が得られていることから、学生のニーズにはある程度沿っているものと考えられる。ただし、これは受講人数が限られた講義であったので、これ以上受講者数が増えると、双方向性は保てないと考える。 | 1名の学生から「プロテオミクスやゲノミクスで使う道具を紹介するのが目的なのはわかるが、道具の使い方や原理が理解できていない気がする。先生方のやり方を真似して結果を出すことはできても、自分の研究でそれを実行できるとは思えない。」との意見があった。これは、真似ればその場ではできるが、自身でやってみると実践できないという意味と考える。そうであれば、知識・技術の真の定着という意味では不十分と考える。これについては、次年度以降改善を考えたい。 |   |

令和3年度大学院授業評価まとめ（秋学期）

| 整理番号 | 講義コード    | 講義名称              | 履修者数 | 回収数 | 回収率  | 平均値  | 授業評価表の分析   | 次回講義への対応  | その他 |
|------|----------|-------------------|------|-----|------|------|--|---|-----|
| 25   | 21665007 | フードサイエンス・システム論    | 29   | 26  | 89.7 | 4.24 | 本講義は、オムニバス形式でフードサイエンスに関する基礎的な内容を英語で講義している、国際コース修士課程学生向けの授業である。コロナウィルス感染症拡大及び留学生が入国できていない状況から、完全にオンラインで実施した講義で、基本的にはズームなどで録画をしながら講義を行い、オンタイムで受講できない学生はビデオを見てレポートを作成するといった対応をおこなった。しかし教員の中には、英語のPowerPoint資料を提示して、それを読ませるだけの形式で行った教員もいたため、これに対して学生からの不満が出たことなどが原因で、ほとんどの項目で科目群平均を下回ったと考えられる。受講する学生の滞在地によっては日本との時差が大きく異なり、Web通信状況も安定していなかったため、学生も円滑に授業を受講することができなかったことも問題であったと思われる。 | 今後もオンラインでの授業が予想されるので、学生の要望に充分対応するために、今後はすべての教員が、さらに講義資料を改善して準備し、オンラインで直接話す形式での講義を行う計画である。   | なし  |
| 26   | 21665010 | 農業生物学特論(国際コース)    | 31   | 24  | 77.4 | 4.29 | 共通項目はどれも平均という結果になっている。普通の講義と言うことになる。   | 平均よりはだいぶ高い項目が少し出るように講義内容を向上させたい。学生からのコメント（そして教員への直接的な連絡でも）に、講義に参加しているのにmoodle上で出席カウントされていないというのがしょっちゅうあるが、これはどういことなのだろう？              |     |
| 27   | 21665011 | 動物・海洋生物学特論(国際コース) | 14   | 10  | 71.4 | 4.61 | 総じて高評価を得たが、難易度が低い評価であった。   | 様々な専門分野の学生がいて、難易度について分かりやすい導入が必要である。  |     |
| 28   | 21669904 | 食品免疫機能分析学特論       | 13   | 9   | 69.2 | 4.75 | 今年度は、講義名を機能性多糖分析学特論から食品免疫機能分析学特論に改め、取り上げる食品の枠を広げるとともに、免疫調節作用を中心に講義を行った。学生の授業評価は平均をやや上回っており、講義内容や資料等について、概ね支持が得られたと考える。授業出席および受講態度は概ね良好であったが、質問が少なく、学生の学習意欲や主体性を高める方策を講じる必要がある。今年度の新たな取り組みとして、外部講師による講演枠を設けたことは、学生にとって有意義であった。  | 次期も同様の講義形式による授業を行うが、内容の見直しと改善を図り、学生の学習意欲と理解の向上に努める。また、学生に身近なテーマを盛り込み、質問の投げ掛けなどをすることで、双方向性を引き出す取り組みをしたい。また、外部講師による講義枠は、継続して設けていく予定である。 |     |

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。（授業評価表の分析の提出がなかったもの除く。）

令和3年度大学院授業評価まとめ（冬学期）

| 整理番号 | 講義コード    | 講義名称       | 履修者数 | 回収数 | 回収率  | 平均値  | 授業評価表の分析   | 次回講義への対応  | その他 |
|------|----------|------------|------|-----|------|------|--|---|-----|
| 1    | 21660006 | 作物学特論      | 12   | 4   | 33.3 | 4.40 | 総合評価として満足度が4.0と低くなってしまった。コメントにも記載されていたが、Moodle上での情報交換が一部の学生とうまく行えていなかったことが原因ではないかと考えている。専門分野が異なる学生に対して、どの程度対応するべきなのか非常に迷いながらの講義となったことも原因ではないかと考えている。 | 使用教科書を再考したいと考えている。近年、専門が異なる学生の受講生が増えてきていることもあり、講義全体のレベルも含めて検討したい。   |     |
| 2    | 21661004 | 樹木生理学特論    | 10   | 9   | 90   | 4.14 | 全体として、やや好評だったと思う。  | 学生側の学びを深くするには、学生にプレゼンを課するのが良いかと思うが、そうすると、学生の負担が大きくなる。私としては、大学院生は自らの研究に打ち込んで欲しいので本意ではない。講義の内容は、講義中に消化できるものになりたい。   |     |
| 3    | 21661007 | 林業経済学特論    | 13   | 11  | 84.6 | 4.56 | 全体的に科目群平均よりも高い評価であった。ゼミ形式で実施し、質疑を重視したため、双方向性（共-60）、説明（共-67）、熱意（共-81）は4.8と高い評価を得た。難易度（共-211）と主体的学修（共-3）が4.3と総体的に低かった。                                 | 学部時代での単位取得状況や学生の理解度を把握した上で、説明の仕方やテキストの担当章を割り振ること、関係する書籍や論文を紹介して、主体的な学びに繋げること、などの工夫を行いたい。                          |     |
| 4    | 21661303 | 木質理学特論     | 13   | 5   | 38.5 | 2.92 |  |   |     |
| 5    | 21661304 | 木質材料工学特論   | 14   | 5   | 35.7 | 3.46 | 学生の慣れない、木材の物理の先端の成果の話で、全般的に評価は低い。その中で、満足度はやや平均に近い。   | なるべく分かりやすくを心がけ、また、双方向での理解度の上昇を期したい。   |     |
| 6    | 21663009 | 比較免疫学特論    | 16   | 8   | 50   | 4.61 | ほぼすべての質問項目で、科目群平均を超える評価点を得た。ただし、双方向性と主体的学修触発に関する点は平均程度に留まった。   | 講義内で、積極的に学生に質問を投げかけて、Q&Aセッションの充実を図りたい。  |     |
| 7    | 21663106 | 遺伝子情報制御学特論 | 22   | 8   | 36.4 | 3.89 | コロナ対応のため、急遽オンラインとオンデマンド形式の講義としたため、特に、双方向性や講義準備に関する評価が低い。また、全体的に平均点を下回るもおとなった。  | 次回以降、対面型の講義を実施することにより、双方向性の確保、学生に理解向上に取り組みたい。   |     |
| 8    | 21663305 | 食品栄養学特論    | 14   | 9   | 64.3 | 4.25 | 概ね、いいのだが、難易度が高いので、ついていけない学生がいるが、栄養学の基礎があることが前提です。シラバスに記載してあります。全体を満足させるのは無理だと思います。   | スライドはあまり配布したくないのですが、復讐用として配布したいと思います。   |     |
| 9    | 21663307 | 食品工学特論     | 26   | 15  | 57.7 | 4.11 | 目標の明示、双方向性、説明、準備、熱意において低値を示していた。今年度はまだ遠隔でおこなったこともあり、一方的になったことも要因の一つと考えられる。   | 次回からは対面で行うことを予定しているため、双方向性や準備、熱意などは改善されると思われる。<br>授業の説明などについても改善をする予定である。   |     |
| 10   | 21665003 | 生物資源論      | 24   | 19  | 79.2 | 4.37 | どの項目も平均あるいは平均を少しだけ上回る程度であった。平均的な講義と言うことか。ただ授業の難易度が適切であったかの設問では、平均より0.2ポイント低かった。  | 授業の難易度については難しいところだ。この講義はどうしても様々な専攻の学生が受講するため、ある学生にとっては簡単でも全然異なる専攻の学生にとっては難しいと思われるからだ。少し基礎的な内容を増やした講義にした方がよいのだろうか。 |     |
| 11   | 21665004 | 地水環境論      | 18   | 15  | 83.3 | 4.12 | おおむね好評であった。  | 適宜講義内容を改善する。  |     |

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。（授業評価表の分析の提出がなかったものを除く。）